

## 事業報告書（令和4年度）

事業名 つながる@home『ことこと』

団体名 cotocoto.coto 担当者名 高畠 佐栄子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時：毎週金曜日 10時～15時

場所：・コミュニティスペースひとひと（岡山市北区学南町2-5-55）

・百間川せせらぎ広場

参加対象者：・親子（未就園児親子、就園、就学児親子）・成人大人・高齢者

・学校に行きにくい子どもとその親・学生 など多世代の多様な人達

人数：R4.6月～R5.2月 計318人

内容：■「シェアリビング”つながる@home『ことこと』”



\*コミュニティスペース『ひとひと』の2階建て1軒屋（庭付き）を週に1回お借りして、居場所活動を開催。

\*子どもを真ん中に、多世代の多様な人が集い、ともに育ちあうシェアリビング。  
おもちゃで遊んだり、本を読んだり、折り紙を折ったり、絵を描いたり、庭で遊んだりする子ども達を真ん中に、その日集う大人達が、お話をしたり飲食をとったりして時間を過ごす。

\*居場所利用料：大人500円/人（ワンドリンク付き）

\*飲食持ち込み自由 \*出入り自由

\*「ぶっくるん」：絵本や本の循環（物々交換）

\*オンラインでのことさぼ説明会



\*「ことさぼ」：ことことサポーター。（一緒にことことを作っていく仲間づくり）

■外の居場所 “つながる@home『ことこと』”（シェアリビング毎週金曜日開催の内、月に1回程度を開催）

\*部屋の中だけでなく、自然の中での居場所の開催。

（他、内容は、上記シェアリビングと同様）

## 2. ESD の視点

### ①・事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

・子育ては親だけがするものではなく、様々な人が関わりあって育てていくという意識が芽生え、行動がうまれた。

・お願いすることや助けを求めることは申し訳ないことではないということに気づき、集う人たちがお互いさまの気持ちで関わりあうことができた。

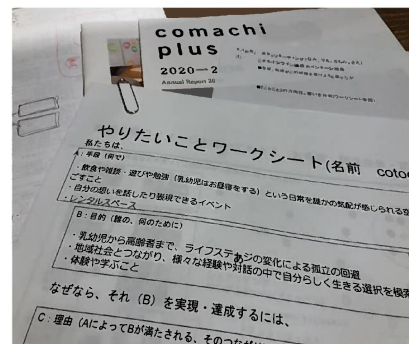
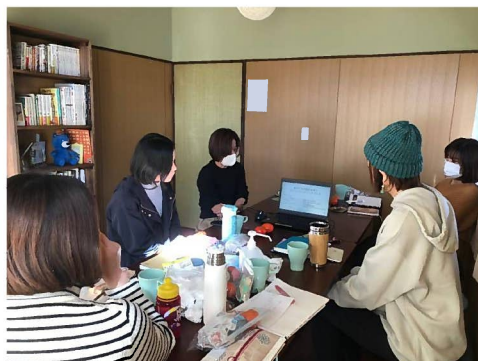
・利用者が支援される側という意識でなく、自ら関わりたいという気持ちを持ち行動し、それぞれの状況、特質、経験を持ちよりながら、ともに考え作っていくことができた。

・自然の中に足を運び時間を過ごすことのハードルの低さ、楽しさに気づき、リピーターとして来てくださる方が多く、外に出向く機会が増えた。



### ②どのように学び合いを取り入れたか

・スタッフ数名が研修を受けた内容を、他スタッフやことさぼ（サポーター）と共有し、学び合い、団体が持続、発展していくための方法をともに考えていった。



・スタッフミーティングで、活動報告連絡にとどまらず、ひとつのテーマに対して考えシェアしあう時間を設けた。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

- ・ スタッフやことさぼ（サポーターさん）のそれぞれの特性、スキルなどを持ち寄り、ともに考え、つくり、実践することで学びあった。
- ・ 研修で学んだことを活かし、これからの団体の取り組みとして実践していき、活動を持続発展させていくことができるよう動いている。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

※シェアリビング利用者数（各々6月～2月） 前年度138人、今年度 253人

- ・ コロナ禍の中でも扉を閉めることなく開け続け、1年目に比べて利用者数が増加した。
- ・ 利用者が0人の日は一度もなかった。
- ・ ひとつのテーブルを囲み、日頃はきだせない想いを話し、聞き、共感しあえたり、お互いさまで助け合ったりすることで、心身ともにエネルギーをチャージしている。
- ・ 親子だけでなく、お一人様や高校生、大学生にも来ていただけるようになり、様々な人との関わりの中で子どもが育まれ、大人も学べる環境がつかれるようになってきている。



※現在、ことさぼ登録者数11人

- ・ 「ことさぼ」というサポーターの仕組みを登録制で構築。支援する側される側の垣根をこえ、ともに考えつくっていく仲間として活動している。
  - ・ “外の居場所”という自然の中でのんびり過ごしたり、自由に遊ぶ環境をつくり、大人も子どももそこに集う人達と関わりあいながら笑顔や会話が生まれていた。
- ※外の居場所利用者数（6月～10月） 65人

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・ 人とつながり支えあいながら暮らしていけるために、世代や所属などカテゴリに切り分けされることなく、もっとたくさんの様々な人達が関わり育ちあえる場づくり、足を運んでいただけるようなきっかけづくり。
- ・ 出産をし子育てが初めてとなる母親（特に第1子目出産の母親）が社会と切り離された感覚が少しでもなくなり、自己肯定感を失うことなく子育てができるために、産前からの母親が足を運びやすくなるような情報発信や企画、実施。
- ・ 子どもの育ちのために、自然の中で自由な発想でのびのびと遊べ、自然体験がもっとできる企画、実施。